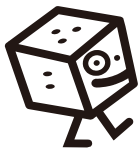


発行日：
2026年3月16日

明治学院大学心理学部 白金心理学会報

さいころ



第18号

2025－2026
白金心理学会イベント

- ・2025年4月3日
学生部会心理学科SC、
教育発達学科SC
新入生フレッシューズ研修
- ・2025年6月8日
白金心理学会第18回大会
総会・2024年度奨励費獲得
者研究成果報告・ティーブレ
イク・ブリットトーク開催
- ・2025年6月25日
学生部会教育発達学科SC
春学期新入生交流会
- ・2025年7月3日
学生部会心理学科SC
相談会
- ・2025年11月9日
学生部会教育発達学科SC
秋学期新入生交流会
- ・2025年11月6日、11月9日
学生部会大学院SC
「大学院ってどんな感じ？
先輩とゆるっとおしゃべり」
(対面・Zoom)

会報第18号発行に寄せて

水戸 博道先生(心理学部長)

大学4年間、そして大学院2年間の学びにおいて、最も重要な研究活動の集大成となるのが、卒業論文や修士論文の執筆です。今年度も、多くの卒業生・修了生が多様なテーマに取り組み、それぞれの論文を完成させて巣立っていきました。そして4月からは、また新たな学部生・院生が研究をスタートさせます。

さて、研究を始める際にまず直面する大きな課題は、研究テーマの絞り込みです。研究を始めたばかりの学生は、未知の世界への好奇心から多くのリサーチ・クエスチョンを抱えがちですが、それらを「研究として成立する問い」へと磨き上げていく作業は容易ではありません。先行研究の検討、方法論の妥当性の判断、社会的意義の評価など、多角的な視点から研究の問いを精査する必要があります。このプロセスは、研究者が最初に越えなければならない大きな壁と言えるでしょう。

こうした壁を乗り越える際に大いに参考になるのが、身近にいる同級生、先輩、卒業生、そ

して教員が、どのように自身の研究テーマを見出し、どのような試行錯誤を経て問いを構築してきたのかを知ることです。そこで本年度の大会では、研究テーマ設定の一助となることを目的に、「ハまる研究／広がる視野：学生・院生・修了生&教員リアルトーク」と題したブリットトークを開催しました。

ブリットトークでは、研究分野も経験値も異なる学部生・院生・卒業生が、それぞれの研究に対する思いや実践を語ってくれました。セッションは大変好評で、これから研究を始める学部生にとっても、すでに研究に携わっている学生にとっても、自分自身の研究の問いを見つめ直し、新たな視点を得る貴重な機会となりました。

白金心理学会の大会は、学部生、院生、卒業生、教員をつなぐ年1回の大会です。今後も、異なる世代の研究者がお互いに刺激し合える魅力的な会として発展させ、この「さいころ」を通して発信していきたいと思います。

白金心理学会第19回大会のご案内

手塚 千尋先生(教育発達学科准教授)

目次：

会報第18号発行に寄せて	1
白金心理学会 第19回大会のご案内	1
第18回大会報告	2
研究奨励事業報告	2
第18回大会 ブリットトーク実施報告	3
明治学院の思い出	4
新任教員のご紹介	5
学生部会SC活動報告	5
事務局よりお知らせ	6

心理学部の同窓会組織でもある白金心理学会では、卒業生と在学生、現職の学部教員や退職された先生方との研究交流や親睦を深める機会として、年次大会を開催しています。

白金心理学会第19回大会は、2026年6月21日（日）に白金キャンパスで開催します。大会前半は白金心理学会総会と2025年度研究奨励費獲得者による研究成果報告会(ポスターセッション)を行います。ティーブレイクを挟んだ後半は、「研究のはじまり」をテーマに、

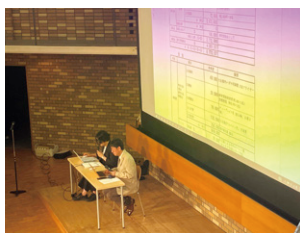
〈19回大会スケジュール〉2026年6月21日(日)

時間	イベント	会場
12:30－	受付	
13:00－13:20	総会	明治学院大学白金キャンパス アートホール
13:20－14:20	2025年度研究奨励費獲得者による ポスターセッション	ダイニングラウンジ・インナー広場さんさん
14:20－15:00	ティーブレイク	
15:00－16:30	ブリットトーク：「その気づき、研究になります。 ：日常から問いが立ち上がるまで(仮)」	ダイニングラウンジ・インナー広場さんさん

教員や院生・学部生が現在取り組んでいる心理や教育の研究におけるリサーチ・クエスチョンが、なぜ／どのように立ち上がったかを紹介するブリットトークの開催を計画しています。研究者個人の日常生活からの気づきやひらめきからがどのような「問い」の生成に結びつき、研究として展開されるのか。これから研究をはじめ全ての皆さんと「知」が創出されるプロセスを共有する機会としたいと思います。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

第18回大会報告

滑川 瑞穂先生(心理学科准教授)



大会の様子

白金心理学会第18回大会が、2025年6月8日(日)に開催されました。大会当日には、学部生、大学院生、卒業生、OB教員、教職員合わせて、約80名の方々にご参加いただきました。皆様にご協力いただき、総会、2024年度研究奨励費獲得者によるポスターセッション、ティーブレイク、そしてブリットークを開催することができました。

総会では、2024年度事業報告、決算報告および会計監査報告、2026年度の事業計画案および予算案が報告されました。いずれも滞りなく承認されました。次に、2024年度研究奨励費獲得者によるポスターセッションが行われ、9件の報告が行われました。ポスターセッション後にはティーブレイクの時間を設け、発表者や参加者の皆様に交流いただきました。最後に「ハマル研究／広がる視野：学生・院生・修

生&教員リアルトーク」と題したブリットークを開催しました。司会・モデレーターとして心理学科萩野俊平先生と教育発達学科根本淳子先生をお迎えし、心理学専攻博士前期課程1年相庭菜美さん、心理学科4年林真気さん、心理学研究科教育発達学専攻2019年度修了生北堀榛花さんにご自身が取り組んできた研究について紹介していただきました。教員、在学生、修了生それぞれの立場から見た研究の魅力と苦労をお話いただき、フロアの皆様を交えて活発な意見交換が展開されました。

ポスターセッションでは終了時間間際になっても多くの方々がご質問され、ブリットークにおいても和やかな雰囲気の中ご質問やご感想が飛び交う様子が印象的でした。この度は大会にご参加、ご協力くださり、誠にありがとうございました。

研究奨励事業報告

滑川 瑞穂先生(心理学科准教授)



研究奨励報告の様子

白金心理学会第18回大会では、2024年度研究奨励事業における9件の研究奨励費獲得者の研究成果報告が行われました(タイトルは発表時、所属は採択時の情報)。

- (1)「視界が環境に対する恐怖評定に及ぼす影響」山田歩弥(心理学部心理学科)、指導教員：萩谷野俊平准教授
- (2)「日本人夫婦における夫婦間葛藤と心理支援への援助要請への過程」チュージェシカ(心理学専攻博士前期課程臨床心理学コース)、指導教員：野末武義教授
- (3)「父母の成人愛着スタイルと育児不安の関連」横田奈々子(心理学専攻博士前期課程臨床心理学コース)、指導教員：足立匡基准教授
- (4)「言葉のコラージュのArt Based Research」田口遥(心理学部教育発達学科)、指導：手塚千尋准教授
- (5)「被服製作における自己概念形成に関する自己概念形成に関するArts-Based Research」川原遼(心理学部教育発達学科)、指導教員：手塚千尋准教授

- (6)「社会的自立を目標とした不登校支援の在り方」木村玲那(教育発達学専攻博士前期課程)、指導教員：小保方晶子准教授
- (7)「顔認知における眼球運動と自己顔評価の関連」矢代健太(心理学部心理学科)、指導教員：金城光教授
- (8)「港区における多言語での読み聞かせ活動」大島夕音(心理学部教育発達学科)、指導教員：渋谷恵教授
- (9)「自己理解を促す図画工作ワークショップの題材開発の実践研究」鈴木海来(心理学部教育発達学科)、指導：手塚千尋准教授

第17回大会から今回のようなポスターセッション形式で実施しております。本大会でも参加者との質疑応答が活発に行われ、大変充実した成果報告会となりました。発表抄録は白金心理学会HPに掲載しておりますので、是非ご覧ください。また、研究奨励事業への申し込みに関する詳細な情報等もHPより確認ください。ご応募をお待ちしております。

白金心理学会HP内研究奨励事業

<https://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/research/>



白金心理学会HP内
研究奨励事業

白金心理学会 第18回大会 ブリッツトーク実施報告

根本 淳子先生(教育発達学科准教授)

白金心理学会第18回大会におきまして、学部生・大学院生・修了生・教員が集い、研究内容やこれからの展望について共有するブリッツトーク企画を実施いたしました。本企画は、心理学および教育分野における多様な研究を紹介し、研究の魅力や意義を会員の皆さまとともに改めて考えることを目的として開催したものです。同窓会組織としての性格もあわせ持つ白金心理学会ならではの企画となり、学年や立場を越えた交流の場が実現いたしました。

司会・モデレーターは萩野谷俊平准教授(心理学部心理学科)、モデレーターは根本淳子准教授(心理学部教育発達学科)が務め、心理と教育の両領域をつなぐ進行のもと、前半は登壇者によるブリッツ形式の発表、後半は対話とディスカッションという構成で進められました。

当日は、学部生1名、大学院生1名、修了生1名の計3名が登壇し、それぞれの研究の現状や取り組みについて共有いたしました。心理学専攻博士前期課程1年の相庭菜美さんより、アバターを用いた取調べ技術訓練システムの開発とシミュレーションに関する研究が紹介されました。法心理学領域に新しいトレーニング方法を提示する試みであり、デモンストレーションが行われると、参加者はその臨場感と可能性に引きつけられていました。研究内容だけでなく、海外研究者との共同研究の現状や実運用に向けて解決すべき課題についても触れられ、今後の研究展開に期待が寄せられる発表となりました。

続いて、2019年度修了生であり、現在は小学校教員としてご活躍中の北堀榛花さんより、修士論文を基盤として実践を深めている算数科文章題指導についての発表がありました。児童のつまずきを捉え、図などの表現を活用した理解支援の工夫が紹介され、研究成果を学校現場に還元し続けている点が大きな示唆となりました。

最後に、心理学科4年の林真気さんから、生理反応を活用した記憶検査(ポリグラフ検査)に関する研究計画についての報告がありました。これから研究を深めていく段階にあるとの紹介があり、今後の発展に期待が寄せられました。

後半のディスカッションでは、登壇者同士の

対話に加え、フロアの参加者も交えながら活発な意見交換が行われました。研究を進める上で時間・予算・倫理的配慮といった課題、現場に出たからこそ気づく研究応用の難しさ、キャリアと研究の両立、そして「研究に取り組む魅力は何か」といった根源的なテーマまで、議論が深められました。具体的な悩みや課題に対して、どのように向き合い工夫しているのが率直に語られ、在学生にとって非常に参考になる内容となりました。

さらに、在学生からは、研究の問いの立て方や研究と現場とのつながりに関する質問も寄せられ、修了生や大学院生から具体的な経験談が紹介されました。研究を軸としながら多様なキャリアが形成されていく様子が示され、本学での学びが将来にわたって生き続けるものであることを実感できる時間となりました。

また、同窓生・在学生・教員といった異なる立場の登壇者の発表を一度に聞くことができた点も、本企画の大きな特徴でした。それぞれの立場から示された問題意識や研究への向き合い方の違いが、参加者に新たな視点をもたらし、学びの広がりを感じさせる場となりました。

参加者からは、「研究の楽しさを改めて実感できた」「修了生の方の話が励みになった」「研究を続けていくイメージが持てた」といった感想が寄せられました。同窓生の活動や成果に触れることができる点は、白金心理学会の大きな特色であり、交流が研究への意欲を高める機会となっております。

加えて本企画は、日頃はそれぞれの場で学びや実践を進めている同窓生と在学生が再びつながり、近況や関心を共有する貴重な機会となりました。研究内容にとどまらず、その後の歩みや現在の活動に触れることで、参加者が自身の学修や研究の位置づけを見つめ直す場となりました。

本企画は、世代を超えて学び合う白金心理学会のコミュニティを象徴する取組であり、互いの歩みを支え合うつながりを強化するものとなりました。今後も、研究発表や交流の機会を継続し、会員一人ひとりの学びと成長を支援してまいりたいと考えております。



根本 淳子先生



ブリッツトークの様子

明治学院の思い出

杉山 恵理子先生(心理学科教授)



杉山 恵理子先生

2004年4月の赴任以来22年という年月が流れ、明治学院大学は、私にとって人生で最も長く所属した、かけがえのない大切な居場所となりました。退職を迎える今、込み上げるのは深い感謝の気持ちです。学部学科等で一緒にいた教員の皆様、様々な形で協働してくださった事務方の皆様、毎日温かく見守り支えてくださった守衛さんや清掃職員の皆様、そして数え切れないほどの学生さんたち。すべての方々から多くのことを学ばせていただき、支えられてきました。この場を借りて心から感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

私の本学での歩みは、2004年の学部立ち上げと同時に始まりました。「こころを探り、人を支える」という教育理念を学部の教員全員で創り出し、それを具現化するための授業「心理支援論」を運営したことは懐かしい思い出です。

さらに、この理念を研究や臨床活動として展開するために、阿部先生、市川先生、清水先生とご一緒に、精神障害者を対象とした地域心理支援についての学部プロジェクト研究を行いました。その成果を世界メンタルヘルス会議や国際コミュニティ心理学会等で発表し、多くの国の臨床家・研究者と交流を重ねて視野を広げたことは、その後の財産となりました。

また、大学近隣の臨床現場とは、精神障害者地域生活支援センターの立ち上げと運営、各種研修・委員会業務やゼミ活動等、様々な形で赴任当初より関わらせていただきました。特にゼミでは、2020年のコロナ禍までの15年余り、近隣の支援現場にゼミ生全員でチームを組みほぼ毎日通い続け、当事者の方々との交流を深めました。学生たちは進路に関わらず人としての大きな学びをいただいていたように思います。

赴任数年後からは、白金キャンパスで「奨励」の奉仕の機会を年に数回いただき、チャペルで「罪人として」「聴くこと、共に生きること」「苦難は必要か」等のテーマで語らせていただきました。厳かな場に立つためには、ご依頼をいただいてから当日までの数ヶ月間、自らの心の底を深く真摯に見つめ、偽りのない言葉を掘み取る必要がありました。日常の業務に追われ内省を失いがちだった私にとって、心を研ぎ澄ませ

る大変貴重な機会となりました。

赴任8年目の2011年には東日本大震災が起こりました。当時は学科主任でもあり、業務の合間を縫って被災地に通いました。圧倒的な哀しみと絶望を目の当たりにし、無力感に向き合う日々でした。翌年の特別研究ではポルトガルで比較研究を行い、帰国後は再び学科主任業務と支援活動に奔走しました。2012年からは法人の評議員を通算10年間務め、教育ビジョン策定や「パヤオプロジェクト」立ち上げなど、人格教育の成果として社会貢献を果たそうとする「明治学院」の一員としての役割をいただきました。2015年からの5年間はボランティアセンターの管理運営にも携わりました。これらの業務に通底していた理念は「他者への貢献」です。どうしたら自分の命を用いて他者への貢献を果たし得るのかという課題に向き合い、自らの人生の軸を築いていった時期でした。

2020年はトラウマの集団療法について在外研究をする予定でした。しかしコロナ禍に自らも発熱、その後現在に至るまで後遺症に苦しむこととなりました。発症当時は臨床・研究・教育に対して持っていた夢が絶たれたように感じて落ち込みました。しかし次第に、「これまでの経験に“当事者であること”を統合していく」という遥かに大切な課題を、神様から授かったように感じ始めました。「謙虚に、謙虚に。怖いもの知らずは終わりだよ」と。病と共に生き、周囲の人々に正しくニーズを伝え、感謝し、身の丈を知りつつ最善を尽くす。今では、この営みは自らの支援者としての歩みを被支援者の視点から吟味し直す大切な作業となりました。

赴任以来「誠実にできることをできるだけ」という信条で勤務してまいりました。できることがたいへん少なくなった発症後も、皆様のお心遣いにより、なんとか業務を続けることができました。回復への見通しは決して甘くはありません。しかし、神様は無意味な試練は与えないと信じています。退職後も本学で培った学びを活かし、誠実に努力を続けていければと願っております。末筆ながら皆様のますますのご発展とご健勝をお祈りし、感謝の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

新任教員のご紹介

本田 真大先生

2025年7月に教育発達学科に着任いたしました本田真大（ほんだまさひろ）と申します。主に理科教育の授業を担当しております。私は、理科教育やSTEM教育における動機づけ、とりわけ興味の形成や発達過程に関する研究をしております。現在、教育現場ではSTEM分野への興味の低さが課題であり、興味を高めるための取り組みが行われていますが、一時的な効果にとどまっているのが現状です。こうした課題に向き合うため、私は理科や教科横断的な学習への興味をどのように測定し、いかに育成していくかに関心があります。今後、みなさまと意見交換しながら、ともに学びを深めていければと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。



本田 真大先生

学生部会SC活動報告

〈心理学科SC〉

心理学科SCでは、新入生の大学生活を支援することを目的に、年間を通して企画の運営を行っています。

4月にはフレッシューズ研修を実施し、ガイダンスやレクリエーションを通して、新入生が安心して学生生活を始められるよう支援いたしました。

また、7月には初めて迎える期末試験・レポートへの不安を軽減するための相談会を開催いたしました。多くの新入生にご参加いただき、「不安が和らいだ」と好評の声をいただきました。

心理学科SCでは、今後も新入生の皆さんが安心して充実した大学生活を送れるよう、継続して支援に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

〈教育発達学科SC〉

教育発達学科SCでは、新入生の交流会を目的としたイベントの企画・運営を中心に活動しております。今年度は、4月に新入生歓迎会、春学期・秋学期には交流会を開催し、クラスや学年の垣根を超えた交流を行うことができました。交流会からは一年生SCも企画・運営に参加し、新しいチームとして活動しております。企画の時点ではなかなか意見がまとまらないこともありましたが、全員で団結し、イベントを成功させることができました。

来年度は反省を活かし、SC一同協力して活

動してまいります。今後とも、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

〈大学院SC〉

大学院SCは、2025年11月6日と11月9日の2日間で「大学院ってどんな感じ？先輩とゆるっとおしゃべり」を開催しました。今年度は対面とZOOMで実施し、計20名の学部生にご参加いただきました。大学院の紹介や個別相談を行い、臨床心理学系の大学院進学を検討している心理学部生の不安や疑問を解消することに繋がったと考えております。参加者からは、「院生の実体験、リアルな日常や実際の声を聞くことができた」、「相談の機会をいただけてとても有り難かった」といった感想をいただきました。今後も大学院生と学部生の交流の場を設け、学部生の役に立てるような活動を行う所存です。引き続きご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。



今年度SCの集合写真



教育発達学科交流会の様子

SC活動一覧

4月	・心理学科、 教育発達学科： フレッシューズ研修
6月	・教育発達学科： 春学期交流会
7月	・心理学科： 相談会
10月	・心理学科： 新SC募集
11月	・大学院： 「大学院ってどんな感じ？先輩とゆるっとおしゃべり」(対面・Zoom) ・教育発達学科： 秋学期交流会
2月	・心理学科、教育発達学科： リーダーシップ研修

住所変更フォームが変わりました

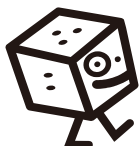
「白金心理学会」は卒業生と在學生、そして教職員の交流と教育、研鑽のためのネットワークです。今後の大会のお知らせなどをお届けするため、卒業時から現住所が変わった、もしくは、ご実家のご住所が変わったという卒業生のみなさまは、事務局まで現在のご住所をお知らせください。

下記のURL、もしくは右記のQRコードからご連絡をお願いいたします。(別サイトタブが開きます。)



白金心理学会登録住所変更ご連絡用フォーム
<https://forms.office.com/r/624inZ79JH>

事務局よりお知らせ



発行：
明治学院大学心理学部
白金心理学会 事務局

〒108-0074
東京都港区白金台1-2-37
明治学院大学
心理学部共同研究室内

TEL & FAX:
03-5421-5814

問い合わせ用E-mail：
shinro@psy.meijigakuin.ac.jp
白金心理学会ホームページ

URL：<https://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/>



○次回大会について

白金心理学会第19回大会は2026年6月21日(日)に開催を予定しています。大会の詳細は白金心理学会ホームページでお知らせします。

○教員の動向

2025年度退職者

心理学科：杉山恵理子先生 / 教育発達学科：垣花真一郎先生

2025年度研究サバティカル教員(2026年度出校なし)

心理学科：川端一光先生、滑川瑞穂先生 / 教育発達学科：根本淳子先生、手塚千尋先生

○白金心理学会ホームページ ー大会や学会情報も随時HPでお知らせいたします！

白金心理学会が主催するイベントのお知らせ(在學生、卒業生向け)や広報紙「さいころ」のバックナンバー他、各ゼミの情報や研究奨励事業に関する情報を掲載しています。また、連絡先の変更や大会の申込みなどもホームページから行うことができます。スマートフォンからも閲覧できますので、ぜひご覧ください。

○メールアドレスのご登録をお願いします

年次大会や事務局からのご案内をお届けするメールアドレスのご登録をお願いします。既にご登録をいただいている方もshinro@psy.meijigakuin.ac.jpの受信が可能となっているかをご確認ください。尚、ご登録いただいた情報は白金心理学会からのご連絡以外には使用しません。

白金心理学会第19回大会参加申し込み
(在學生・卒業生・教員用)

